

- 一、昭和五三年度佐久考古学会総会について（予告）
- 二、昭和五二年度佐久考古学会会務報告
- 三、昭和五二年度会計決算報告
- 四、昭和五三年度事業計画（案）
- 五、昭和五三年度会計予算（案）

佐久考古十八通報

版 11

1978, 5, 31

佐久考古学会



附录 5.3 年度报告表第 1 部分 (年告)

1. 日 時 昭和53年6月10日(土)午後2時~

2. 会場 佐久市野沢会館

3, 日 程 PM2:00~

- 1) 開会のことば
 - 2) 会長あいさつ
 - 3) 日程説明
 - 4) 議長選出
 - 5) 議事

第1号議案 昭和52年度会務、決算、会計監査、報告及び承認の件

第2号議案 昭和53年度事業計画(案)承認の件

第3号議案 会則変更の件（会費値上げ）

第4号議案 昭和53年度会計予算(案)承認の件

その他

- 6) 朗会のことば
4, 講演 PM 3:30~
「佐久平の遺跡について」 講師 高村 博文
5, 慇親会 PM 4:30~
会費約1,500円

以 上

(当日車は御遠慮下さい)

(第 1 号 議案)

昭和 52 年度佐久考古学会会務報告

S 52 年 9 月 10 日 佐久市野沢会館にて総会及び花岡弘講師による講演

「長野県における古式土師器の成立」

林幸彦会員による「後沢遺跡」のスライド大会を行う。

S 53 年 1 月 14 日 佐久市岩村田浅間会館にて第 1 回例会を行う。この例会において県考古学会より提出された、埋文白書の佐久地区における調査を分担して行うことを決定する。

S 53 年 2 月 3 日 佐久市岩村田出福荷神社前にて、初午に米を人々を対象に野沢南高校郷土史班の会員により、阿久遺跡保存署名を実施する。

S 53 年 2 月 18 日 佐久市岩村田浅間会館にて第 2 回例会を行う。

S 53 年 3 月 18 日 佐久市岩村田浅間会館にて第 3 回例会を行う。

S 53 年 4 月 8 日 佐久町立遺跡既出資料及び遺跡の立地観察のため、第四回例会を焼地において行う。

S 53 年 5 月 19 日 佐久市岩村田浅間会館にて役員会を行なう。

S 53 年 1 月 31 日 佐久考古通信版 9 発行

S 53 年 3 月 31 日 佐久考古通信版 10 発行

S 53 年 5 月 31 日 佐久考古通信版 11 発行

S 53 年 5 月 5 日 佐久考古版 4 発刊

◎ 埋文白書佐久地区カード作成

◎ 阿久遺跡保存署名実施

昭和52年度会計決算報告

取 入 の 部

単位円

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比 較	説 明
1 繰越金 1)繰越金	3,390	3,390	0	
2 会 費 1)会 費	66,000	35,500	△32,500	
3 委託料 1)委託料	0	0	0	
4 会報料上金 1)会 報	10,000	24,000	14,000	
5 寄 費 金 1)補助金	0	0	0	
	2)寄 費 金	0	3,000	3,000
6 雜 入 1)雜 入	610	0	△610	
合 計	80,000	63,890	△16,110	

支 出 の 部

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比 較	
1 報 賞 1)謝 礼	5,000	6,700	1,700	
2 旅 費 1)一般旅費	0	0	0	
	2)役員旅費	0	0	0
3 需 要 費 1)印 刷 費	4,600	4,330	△270	通信5回 考古1回
	2)消耗品費	5,000	1,590	△3,410
	3)食 料 費	5,000	5,760	760
4 役務費 1)通 信 費	15,000	6,300	△8,700	
5 備 品 費 1)備品購入費	0	0	0	
6 事務局費 1)事務局費	4,000	0	△4,000	
7 予 備 費 1)予 備 費	0	0	0	
8 繰 越 金 1)繰 越 金	0	240	240	
合 計	80,000	63,890	△16,110	

運営費

項目	金額	説明
基 金	10,000	
支 出	5,000	与良 清顕門
残 額	5,000	

(第 2 号 議案)

昭和 53 年度事業計画(案)

- 1, 総 会 6月10日(土)
 2, 例 会 月1回第2土曜日 午後2:00~
 3, 講 演 会 6月10日(土)
 4, 会報の発行 年1回 (与良, 梅水, 竹内氏追悼特集号)
 5, 通信の発行 年4回 (7月, 10月, 1月, 4月)
 6, 展 示 会 年1回

(第 3 号 議案)

会則変更の件(会費値上げ)

第5条 本会の運営の経費は次のように定める。

- 1, 会員 ア 個人会員 年額1,500円
 　イ 団体会員 年額1,500円
 　　(ただし, 中, 高校生については1,000円)
 ——を「1, 会員 ア 個人会員 年額2,000円
 　イ 団体会員 年額2,000円
 　　(ただし, 中, 高校生については1,000円)」
 と改める。

(第 4 号 諸 案) 昭和 53 年度会計予算(案)

取 入 の 部		単位円		
項 目		年度予算額	前年度予算額	比 較
1 越 金	1) 越 金	240	3,390	△3,150
2 会 費	1) 会 費	80,000	66,000	14,000 40人×2,000
3 委 托 料	1) 委 托 料	0	0	0
4 会 費 先 上 金	1) 会 費 先 上 金	10,000	10,000	0
5 寄 附 金	1) 補 助 金	30,000	0	30,000
	2) 寄 附 金	30,000	0	30,000
6 雑 入	1) 雑 入	760	610	150
合 计		151,000	80,000	71,000
支 出 の 部				
項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較
1 報 酬	1) 謝 礼	5,000	5,000	0 謝師謝礼
2 旅 費	1) 一般旅費	0	0	0
	2) 役員旅費	0	0	0
3 需 要 費	1) 印 刷 費	90,000	46,000	44,000 通常25,000 考古70,000
	2) 消耗品費	13,000	5,000	8,000
	3) 食 料 費	10,000	5,000	5,000
4 役 務 費	1) 通 勤 費	15,000	15,000	△2,000
5 備 品 費	1) 備品購入費	0	0	0
6 事 務 局 費	1) 事務局費	10,000	4,000	6,000
7 繰 出 金	1) 繰 出 金	5,000	0	5,000 暫弔費へ
8 予 債 費	1) 予 債 費	5,000	0	5,000
9 越 金	1) 越 金	0	0	0
合 计		151,000	80,000	71,000

佐久考古遺信函 11

発行所：佐久市大字岩村田住吉町 1040の7

佐久考古学会事務局 木内 捷

TEL 02676-8-0617

発行者：由井茂也

編集者：林 幸彦 花岡 弘

島田恵子

- 一 昭和五十三年度總会報告
- 二 昭和五十三年度會計予算
- 三 佐久考古學會規則規定
- 四 例會年間日程
- 五 佐久地方出土の石器の石質について
- 六 自然と遺跡
- 七 編集後記

佐久考古
学会

No. 12

1978, 7, 16

佐久考古学会



昭和五十三年度総会報告

本年六月十日、佐久市野沢会館にて昭和五三年度の総会が開かれました。

開会のことば、会長あいさつに続き、井上行進会員を議長に選出し議事に入りました。事務局より、会務、会計決算報告が行なわれた後、会計監査委員の白金盛男会員より会計監査報告がおこなわれ、承認されました。

次いで昭和五三年度事業計画、会計予算の議事に入りました。事業計画については、事務局案どおり承認されました。会計予算については、支出の部で事業計画にある「展示会に於ける支拂が予算に盛り込まれていな」忠等から質疑があり、再度役員会で検討して、「佐久市古道宿の板上をもつて会員の承認を得る」という案でまとまりました。(下記参照)議事終了後、高村博文幹部による「佐久平の迷惑について」の癡説があり、統計によりわかりやすく説明していただき有効でした。誤謬点は引き続いて懇親会が催され、など。

昭和53年度会計予算

支出の部

項	目	本年度予算額	前年度予算額	比較	説明
1 報 計	1) 開 札	5,000	5,000	0	謝郎歎礼
2 旅 費	1) 一般旅費	0	0	0	
	2) 役員旅費	0	0	0	
3 需 要 費	1) 印 刷 費	90,000	46,000	44,000	通常 20,000 端吉 70,000
	2) 消耗品費	15,000	5,000	8,000	展示会費用含む
	3) 食 料 費	15,000	5,000	5,000	展示会費用含む
4 役 務 費	1) 通 信 費	15,000	15,000	2,000	
5 備 品 費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事 務 局 費	1) 事務局費	10,000	4,000	6,000	展示会費用含む
7 繰 出 金	1) 繰 出 金	5,000	0	5,000	
合 计		151,000	80,000	71,000	
※ 予算の範囲内の流用を認める					

佐久考古学会規則

第1条 本会員に、貢献した方に優厚奉事及び褒美が生じた際にこの規定を適用する。

- (1) 会員の誕生日には、お祝いを贈る。
 - (2) 会員の弔事には、香料を供する。
 - (3) 会員の疾病には、御見舞をする。

第2条 第1条に該当する事項が生じた際は、その都度協議して決定する。

第3条 本規定における慶弔及び御見舞に対するお返しはいただかないものとする。

第4条 本規定は、昭和53年7月1日より施行する。

※ 昭和53年度第1回役員会は、7月1日、午後2時より役員会館に於いて、10名の役員の出席をもって開かれました。議会において賛成のあつた、昭和53年度会計予算の再検討及び施設規定の一部修正が決まりましたので、本紙上をもって報告並びに承認させていただきます。

例会年間日程

例会年間五種

昭和五十三年度の事業計画でありますと例会との年間日程が次のように決まりました。

変更があつた場合のみ、ハガキで連絡しますが、変更のない場合は連絡をしませんので、各自御了承下さい。

時間 千葉二時二分

七月八日(土)

九月 九日（土）
十月十四日（土）
十一月 三日（土）
十二月 九日（土）

お互に競ら合ひ、自らの研究の優劣点等の問題を提起などを遠慮なく出し合ひて、意義ある例会をみんなの力でつくりあげて行きたいものです。

佐久地方出土の
石器の石質について

（三）

人形が最初に手にした道具は、自然石や一部加工した岩石であり、古く旧石器時代から縄文、弥生時代に及んでおり、磨製石器まで発達している。

金属性も元をただせば、これも又地下資源の岩石から利用されており、岩石と考古学の結合にはきりはなすことはできない。佐久地方の古遺跡出土品で筆者の調査した石器の石質について概観を例記して御批判を得たい。

(1) 旧石器

矢出川、馬場平、柏垂、池の平等の遺跡から出土した打製石器は黑曜石が最も多く、チヤド、硬砂岩、粘板岩がこれにつぎ、珍らしいものには盆地に残された川上附近からは水晶製のものも稀に見られる。いずれも縄文、弥生時代に及んでおり、磨製石器まで発達している。

（2）縄文・弥生時代の石器

各地の遺跡に最も普遍に見られるものは、打製の石斧と石矛であるが、チヤド、硬砂岩、粘板岩が最も多く、稀に玄武岩もある。それぞれ岩石の剥離面が活用されて形が成されている。

磨製石斧には、閃綠岩、輝緑岩、粘板岩のものが多く、鐵害を免じて刃と刃を見ることが出来る。小形のものには蛇紋岩製のものがあるが、これは軟質で実用に耐えないと云ふので、表面削かれて使用したものであらう。

矢出川の磨石器はほとんどが良質の黒曜石

とがあるが、鹿佐久地方では桃太郎の実産者で、八ヶ岳立科山附近に数ヶ所ある露地のものより一段と良質なもので和田岬産のものであらうと推定されている。

その他のポイント等の石器は、チャート、硬砂岩、粘板岩、硅岩で、例れも桃太郎古生層を構成する岩石で、南佐久郡の千曲川以東の佐久山塊、出口谷以南舟沼、出口、大日向、南北相木、川上地域に広く分布するもので、

これらの岩石は現千曲川河床帶中に容易に発見採集できるものである。

（3）古墳

古墳の墓道には粒と質の関係から各その地域で並するものが多く利用されているが、佐久地方には周間に火山が多いために安山岩が大部分である。

安山岩には板状節理の発達する場合が多く、平に大きく割れ易いので大板が得られ易く、これが古墳に活用されることが多いし、中世初期では浅間山の混築束縛の流れ山が利用されてゐる例もある。

駒付近では浅間山の混築束縛の流れ山が利用されるが、これは優質美觀という条件が第一であるので、赤玉、赤玉、水晶、稀にヒスイがあるが、これは軟質で実用に耐えないと云ふので、表面削かれて使用したものであらう。

製造容易な蛇紋岩、滑石が用いられている。

(4) 分類

(一) 火成岩

① 安山岩 火山から出る溶岩、多孔質のものから板状のものが多用される。

② 玄武岩 船底火山だけにある。内山、田口方面一名うすまき石

③ 内蒙岩 岩質地少し、硬くて緻密、緑色

④ 鮫島岩 産地少し(田口、大日向、北相木、川上)硬くて脆くと柔らかい。暗緑色

⑤ 鈍鉄岩 錆黄色、軟質、大日向、北相木のみ

⑥ ナイアード・硅酸の化学的沈澱、灰、白、黒色あり、赤玉と云ふ硬質良質のもの半透明白

⑦ 硬砂岩 石英細砂で硬い

⑧ 粘板岩 粘土の沈澱、仙台石と同じもの、黑色、半透明易い。

⑨ 鮫島凝灰岩 黄や緑、岩のようあり、海底火山灰沈澱

⑩ クラス岩 荒礫、砂の沈澱

(二) 变成岩

⑪ 薙泥片岩 佐久に露出なく秩父産、青色

(三) 物質

⑫ 水晶 硬度7、良質のものは無色透明ガラス状

⑬ ひすい 硬度7、綠青色、産出地

⑭ 玉 玉塊は散れているが種々少量産出、青色

⑮ めのう 火成岩の中に玉のようにならて存在する。白、乳白、紅、橘模様

⑯ 玉ずい めのうに似ている乳白色透明。

自然と遠藤

三 石延堆

上板井北邊跡の調査の時である。窓櫓の塊に白金先生が見えた際に、先生は石についての話をされた。

その話の中で先生は、「石は物を言う」と言われた。私は石から石が好きであり、先生と同じ考え方であった。そして又、土も石と同じように私たちに色々な事を教えてくれると思っていた。

然し上板井北邊跡で汗だくになりながら土に取り組み、草からでかく土の上には汗が玉とをつて流れ落ちた。だが土は中々這耕をはつきりと教えてはくれない。なぜであろうか。

「ひつたい住居址がどのようにして土の中に残るのであろうか。こんな事を私は考えて見て行つた夢をこの目で見ている。又山の炭坑小屋などが自然に湧かれて行くもありまさなど

私は、住む人が居なくとも、自然に湧かれて行つた夢をこの目で見ている。又山の炭坑小屋などが自然に湧かれて行くもありまさなど

も見てゐる。そ心ありさまを見ると、人が居なくなると第一に周りに雜草が生い茂る。そして植木が次第に腐つて落ちる。そして小屋組がつぶれるまでには何年かの年月がかかる。(又、家が火災で焼けたにしても周りに雜草の生える事は同じである。物は腐れば腐殖質となり土に還元する。

自然と藝術

もうすうと別のことである。既死新聞の社説に藝術を論じた記事があった。其の一説に、「地球の皮をしんむいて」と書いた西葉のあした事を私は覚えてゐる。地殻の皮をしんむく藝術は確かに自然破壊であり、又本格的な藝術の始まつたのは、寄生時代とすれば自然破壊も又比の類に始まつたと言える。

草や木は繁殖して大地を保護し、森林は雜草を除去する事に依つて當なまれる。地殻の雜草を除去する藝術は、時には雨水により土が洗されて地形を変える。

住居址内の石



表土の中の石は、自然破壊ではないと西葉であつた。或いは土地を農耕に使用するため、又は二次的に住居を作るためなどの目的で石を入れて周囲から獨立したように考えられた。

或いは住居址内の石の中には、何らかの目的をもつて入れられた物もあるとは考えられるが、いかに洪水と雪ども周囲の土地を破壊しないで、住居址内に土や石を流し込む事は不可能である。したがつて石や土礫片の多くは回に投入された物のように考えられた。

なにか私たちの日常生活は、一方では自然にしたがい、又一方では自然に逆行して営なされている。

一慶次である私の一生は、雜草との戦いで

佐久考古通報第12号をお届けいたします。今年度総会で、通報の発行予定期が決まりました。

毎日が統合しております。

編集後記

佐久考古通報第12号をお届けいたします。自己の意見や研究を気軽に交換し合う場として大いに通報を利用してください。

植木をお待ちしております。

佐久考古通報第12号

発行所：佐久市岩村田10400-7

佐久考古学会事務局 水内 誠

TEL (02676) 8-0617

発行者：白井茂也

編集者：林幸彦 花岡 弘

島田恵子

- 一 昭和五十四年度佐久考古学会総会について
- 二 会費納入について
- 三 韓国歴史の旅から(一)
- 四 学会の動向
- 五 新入会員紹介
- 六 編集後記

佐久考古通信

版 13

1979, 4, 10

佐久考古学会



昭和五十四年度佐久考古 字会總会について

去る四月十日の役員会に於て、昭和五十四年度佐久考古学会総会の日時が決定しましたので御案内いたします。

日 時 五月十三日(日)午後二時
場 所 岩村田浅間会館大會議室
万葉お縁合せの上御座席下さいますようお願い申し上げます。

会費納入について

年度の決算目に当り会費納入の整理を行ないました所、末納の方が大変多いようです。今回、振替用紙を封入しましたので、会の運営のため、またすでに納入済みの会員のためにも、お忙しいことは存じますが、お忘れなくご送金下さいますようお願い致します。

(会計係)

韓國歴史の旅から(一)

井出 正義

最近韓国人自身による韓國古代史研究はすぐれた実績を示し、特に考古学的成績は目ざましいものがあるといふ。それと共に、日本古史に対する韓國側からの発言力も強まってきたようだ。韓國の文献や考古学に対する理解なしには日本古代史の解明は困難であり、今後は日韓両国の共同研究が強く望まれている。こんな話を聞くにつけて、例の對馬根情が顔をだし、おれも一つ韓國の古墳や土器をみたいものだと思いつた、以前から勝手かけのあつた東アジア文化史研究会の第七回韓國古代史の旅に参加することにした。

七月三十一日十一時東京空港発、午後一時金浦空港着、京成と板門店と水原と公州と扶余と高麗寺と慶州と釜山と京城とまわって八月七日午後三時金浦空港発、七日八日の炎天下の実行スケジュールであった。長崎大学教育学部の加藤章先生を指導者とし、全国から集まつた三十七名の参加者は現役の高校、中学の社会科の担当教諭が大多数だが、小学生のようなコートや愛り難もかなりはじついる。女性は三名、韓國語を理解できる人も二三人はいるようだが、俊秀なガイドがついて、ことばの心配はまったくない。

京城の国立中央博物館は、景福宮内に一九七一年に新築されたもので、韓國の古寺にかなどて改修され、堂々たる美術を誇っている。韓國全体からすぐれた文化財が集められる。韓國古代史の年代を日本と比較してみると、純文式土器の時代は韓國は備文土器、つづいて無文土器の時代で、これは青銅器使用の時代である。つづいて百二十年紀ごろから铁器時代に入る。初期鐵器時代はいわゆる古朝鮮の時代であり、日本はこの影響をうけて沃泰、泰耕文化をうけ入れて男生式時代に入つたものと考えられる。新羅高勾麗、百濟、の三国の成立期は日本の古墳時代にあたり、大和朝廷の成立期である。三国のはげしい対立時代、いわゆる三國時代は我が国の飛鳥時代であり、新羅が半島を統一したのは六七八年である。これを表示すれば次のようになる。

舊文土器時代

舊文時代

無文土器時代

青銅器時代

古夷鮮

初胡铁器時代

弥生時代

新羅

成立期

高勾麗

百濟

三國時代

古墳時代

統一新羅時代

飛鳥時代

奈良時代

韓國には、日本の純文土器のように豪華な文様のものはみられない。傳文土器には、矢頭や押型文がみられる。最近は模様起紋文土器など最古の土器を出して日本との関連が考えられているようである。無文土器の中には傳文式土器との近似性が感じられる。板付式土器と北無会寧五種道器の器形の共通性が論じられ、釜山に近い金海貝塚からは傳文式十番そのものともいいうべき土器が出土している。太形半刃、柱状片刃、扇平片刃、环入柱状片刃等の磨製石斧類や半月形の石庵丁などをみて感心する。これらは骨器時代以前から発見

されるというから、BC三世紀ごろから鉄器と並んで、日本にわたりて傳文式文化を形成したものと思われる。

古墳時代の器物は、まず新羅の金の裝飾品の車輪に属する。金冠や長鏡型の耳飾の精緻な工芸技術とそのほかは、古事記神功皇后の像に「金鏡をはじめ」として目のかがやく輝きの珍宝さわにあり」と記された。当時の日本人の相異をものあたりにみる思いである。これらの形式や技術がわが国

の古墳文化に影響を与えていたことは、一見して明らかである。高勾麗の革金具も見出されるので、獸面（油子様）をかたどつた一つ一つの金具を細い金の針金でつまいでいる。油子

馬鎧である。韓國の青銅器時代に馬鎧として用いられた小銅鎧が、日本に伝えられる限りわかる。これは馬具として用いられた馬鎧である。韓國の青銅器時代に馬鎧として用いられた小銅鎧が、日本に伝えられ

るもののとして用いられたものであろう。

勾玉もりつばなものがたくさんあり、日本の獸面（油子様）をかたどつた一つ一つの金具を細い金の針金でつまいでいる。油子本の頃から相当する意味のものとされているが、その動物や人物の文様はきわめて写実的で興味がある。獣面像壓器などは当時の萬具について知る上の貴重なもの。

須恵器が三國時代の続器の主導をなすこと

もわかった。四年、六耳の盞が骨壺として用いられていることを日本と同じだ。須恵器須恵器はすべて底が凹んでいて、百済は円

みおわったとき、古代韓國文化のすばらしさと日本との共通性について深い感動をおさえられたかった。

韓國の須恵器は十と二十の位の小要のものだがその形は日本のものと同じであり、舌がついていて、これが音をだす鉢であることがはっきりわかる。これは馬具として用いられた

大型のものにつくられ、弥生時代の祭祀に使用された新しい熱物であるといふことも、別天にじぶんの日でたしかめた印象はまた解かであ

講演温泉ホテルに泊つた翌日は、高麗木から季朝初期の墓場として知られる赤山温泉跡にいき、数々焼のある小山で草をわけて青緑のかけらをいくつか拾つた。されば小川で洗つてピニール紙におさめて公州に持つ。途中の農村風景は美しい。自然が豊かに思ひている。

公州は羅江の屈曲部につくられた百濟第一番目の古都である。高句麗のため漢山城(いまの京城付近)を攻め落されて善國王が焼してしまったので、子の文廟王は南に後退して四七五年(紀元前五世紀)を改め落した。これが公州である。以後高麗王が扶余に遷都するまで、五代六十二年間の百濟の都城である。町の人たちほどまことに歴史をだいじし、教育が盛んで教育大学が二つもあるといふ。

武寧王陵と大書した門をくぐって、宋山里の三波の谷に入る。谷の右手車窓一帯の山と田畠の群がるいのとしてみてくる。韓國の古道は樹木で覆われた日本とちがつて、石を破られお構を伏せたような丸い墳丘である。史城第十三号宋山里古墳群と書かれたりつけられ、内げがある。武寧王陵は外見は他の墳丘と何

の変わりもない。丘陵の斜面につくられた小

円頂である。入口に立つと内部は暗できれいに積んだある。撮影は禁止だ。電灯がつけられ目が調れてくると、その内部のりっぱさに

息をのむ。さすがに王陵だ。排水溝の崩れから偶然みつかったこの王陵の中にはじめて入った金之藏先生(京城大学教授)が、あまり

の大発見にふるえてしまつたといふのも事実だろう。一枚一枚の磚の小口にはすべて文様がつけられ、これをきれいに小口積みにしてアーチ型の天井を構成し、全体として内部は大きなかまぼと形をしている。長方形の床面でもまた磚が敷きつめられ、腰廻廊と玄室は段差がつけられている。西洋のおとぎ話の中の宮殿を見ているようだ。腰廻の入口を塞いでいた大石も傍に立てられている。その間に石獣の像が古墳を守るかのように置かれていた

これは六世紀の古墳である。武寧王のすぐ下方にある第六号古墳もほぼ同様の規模をもつて構成される。撮影は禁止だ。電灯がつけられ目が調れてくると、その内部のりっぱさに

息をのむ。さすがに王陵だ。排水溝の崩れから偶然みつかったこの王陵の中にはじめて入った金之藏先生(京城大学教授)が、あまり

の大発見にふるえてしまつたといふのも事実だろう。一枚一枚の磚の小口にはすべて文様がつけられ、これをきれいに小口積みにしてアーチ型の天井を構成し、全体として内部は大きなかまぼと形をしている。長方形の床面

でもまた磚が敷きつめられ、腰廻廊と玄室は段差がつけられている。西洋のおとぎ話の中の宮殿を見ているようだ。腰廻の入口を塞いでいた大石も傍に立てられている。その間に石

獣の像が古墳を守るかのように置かれていた

これは六世紀の古墳である。武寧王のすぐ下方にある第六号古墳もほぼ同様の規模をもつて構成される。撮影は禁止だ。電灯がつけられ目が調れてくると、その内部のりっぱさに

息をのむ。さすがに王陵だ。排水溝の崩れから偶然みつかったこの王陵の中にはじめて入った金之藏先生(京城大学教授)が、あまり

の大発見にふるえてしまつたといふのも事実だろう。一枚一枚の磚の小口にはすべて文様がつけられ、これをきれいに小口積みにしてアーチ型の天井を構成し、全体として内部は大きなかまぼと形をしている。長方形の床面

でもまた磚が敷きつめられ、腰廻廊と玄室は段差がつけられている。西洋のおとぎ話の中の宮殿を見ているようだ。腰廻の入口を塞いでいた大石も傍に立てられている。その間に石

獣の像が古墳を守るかのように置かれていた

これは六世紀の古墳である。武寧王のすぐ下方にある第六号古墳もほぼ同様の規模をもつて構成される。撮影は禁止だ。電灯がつけられ目が調れてくると、その内部のりっぱさに

息をのむ。さすがに王陵だ。排水溝の崩れから偶然みつかったこの王陵の中にはじめて入った金之藏先生(京城大学教授)が、あまり

の大発見にふるえてしまつたといふのも事実

が感じられる。館内の陳列品はすべて武寧王の陶器品で、その数は二五〇〇余点といふ。墓の入口を守っていた石駕、王と王妃の名を刻んだ墓誌石、王、王妃の硬金冠冠飾、耳飾等まだ感嘆の息を發するばかり、王陵の威氣に圧倒されてしまつたようだ。

百濟第三番目の占都扶余は、公州よりも広々とした盆地で、豊かな水田地帯をひかえ、全体として飛鳥を思わせる地だが、それよりずっと大きく、急々と流れる白馬江（鷦鷯江）によって中国、日本の港に通じる時興廢的の王都であつたことが実感される。百濟朝こそ飛鳥朝の本國であるといつた現地学者の説も一応うなづけるようなたたずまいである。

武寧王の子聖王（聖明王）が宿敵高句麗に対する防衛のため都を公州から浦江下流約三十kmの扶余に移したのが五三八年で、それから百濟滅亡に至る六六〇年まで一二二年間の都である。扶余博物館長金先生の案内で、博物館と扶蘇山城と落花岩と白馬江とめぐり、山上に追いつめられた多數の宮女が岩窟から散る花の如く白馬江に身を投じたと伝えられ

る。その落石を仰ぎつつ、水量豊かな白馬江上から古都を望むば、当時の百濟王宮（現博物館付近）は背後に標高一〇〇mの扶蘇山城を負ひて、二重の城壁をめぐらし、東西に種々たる城門を走らせ、前面に繁華な町並みをほこっていたといふ。古代田原都市の姿が幻のようによみがえつてくる。七世纪、大和朝廷の便船や軍船がこうしてにぎにぎしく入港してきたことであろう。仏教や藝術工芸もここから飛鳥に伝えられていった。百濟と人相撲の關係の深さが容易なものでなかつたことが察せられる。當時は百葉さえも北通に詰されたとさえ言われている。六六三年百濟被撃に向かった大和朝廷の志軍がこの川口の白村江に於て唐の水軍に敗れたことが、この因の運命を決定的なものにしてしまつた。

そして大和朝廷はこの半島に於けるすべての關係を失つてしまつたのである。

府から上がりがつて、白馬江大橋を渡って、定林寺跡に石造五層塔を訪ねる。國宝第9号である。第一層の西面に百濟を平定した唐の將軍蘇定芳が自己の功績をたたえるための碑銘がある。（つづきは十五号になります。御期待下さい）



扶余国立博物館では、なんといつても瓦と仏像である。飛鳥寺や山田寺出土のものとそろびてきたことであろう。仏教や藝術工芸も花崗岩を用いて精緻な彫刻を施した石造建築業は韓國古代文化の高さを象徴するもののように思われる。

学云心動回

本年度の総会に於て、事務計画の一項に題示会が計画されておりました。

十月に入り連儂会が開かれ、期日は十一月

三日と五日の二日間、旧中込学校に於て、佐久考古学會、佐久市教育委員會、公民館、佐久市文化財審議委員會の共催によつて開催する事が決定し、展示物の復原、準備に約一ヶ月間日夜に亘り大奮斗しました。こうした苦労を経て、古學會員の努力と共催の方々の協力によつて三日間の見学者は千人以上も訪れ、大成功をおさめました。(詳細については次号の会務報で告白を行ないます)

七月八日、八月十二日、九月九日、二月十一日
七月十六日 佐久高古通鑑卷十二
四月 十日 徒貴会

新入会員紹介

新入会員紹介	
内山俊男	御代田町幸越
萩原範仁	御代田町幸越
柳沢文人	御代田町広戸
大井豊	御代田町柴町
尾台早一	御代田町元区
大沢俊雄	御代田町元区
山本太郎	御代田町鹿瀬口
小林五郎	御代田町一里塚
櫻井雅範	御代田町滑方
橋井為吉	御代田町荒町
細萱勇美	佐久市中込三二八(五)

福集後記

佐久考古通信第15号をお届けいたします。
いつもの遅刊にまたお詫び申しあげなればなりません。

佐久考古通信稿 13 号

發行所：佐久市大字岩村田 1040-7

佐久考古学会事務局 木内 捷

现代汉语词典

編者：蔡 壽 花 列

耽田 漢子

佐久考古通信稿

No. 14

1979, 5, 1,

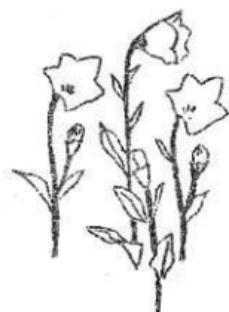
佐久考古学会

一、昭和五十四年度佐久考古学会総会日程（予告）

二、韓國歴史の旅から

三、山村考古学研究者の復讐り

四、編集後記



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

(7) 開会のことは

昭和五四年度佐久考古

字会総会日程(予告)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1. 日 時 昭和五四年五月十三日(日)

午後二時

2. 場 所 佐久市岩村田 機関会館

大金鑑室

3. 目 標 (1) 賞金のことは

(2) 会長あいさつ

(3) 日程説明

(4) 球長選出

(5) 講 事

(6) 会員登録

第1号謹賀 昭和五三年度会長、決算、会員登録報告及び承認の件

第2号謹賀 昭和五四年度事業計画(案)

承認の件

第3号謹賀 昭和五四年度会計予算(案)

承認の件

第4号謹賀 昭和五四年度役員改選の件

(6) そ の 他

4. 講 演 時 30分

「佐久平の寺生式土器について」

5. スライド大台 佐久町宮の本遊説

6. 講義会 会員料千五百円

以 上

河久社跡

説明 林 幸彦氏

7. 懇親会 会員料一千五百円

右記のようになりますが、決まりました。

尚、詮索書は当日受け付けて配布致しますので御了承下さい。

お忙しい事とは思いますが、年一回の大会ですりて、会員の皆様一人でも多く御出席下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

(参考用)

碑 国 歷 史 の 旅 か ら (二)

井出 正義

大陸で造られた翌日は御嶽山海印寺にいく。海印寺は深い渓谷の中にあり、岩と水とそして大きな赤松の古木におわれ、日本にきたような感じを覚える。ここには彌勒が世界に誇る高麗版大威徳の般木八、一二五八枚が

エンジレスの内柱に力強い肘木をのせた二種の長大な寺院建築の収蔵庫に整然と納められている。この仮木は蒙古の樂米を防ぎ、國體教説の悲劇をこめて高麗王朝の高宗が一二三六一二二五一年の間につくったもので、いまでもりっぱに使用できるという。この仮木で刷りた被服心経を記念に貰った。碑国では平時時代に道教を國教として仏教を排斥したので、つい慣習がうすれ、弊紙はアメリカとの關係がヨーロッパの紹介があえていたが、ここで夏季祭典にはげむ像を見て、韓國でも仏教がまだ生きていることを知った。

海印寺から慶州へ向かう途中で墨壁を通る。

水田の多い小盆地だが、そこは三国時代の大
阪府（御座）の地である。萬治園は六萬治と
いわれた郡の郡守の連合体とそなえられるが、
中でも龜山の大御名（御座）は百濟にも曾經
にも屬せず五〇〇年間の独立を保つた。現在
でもその伝統が残っていて、この地方の人々
はプライドが強く、なかなか他に屈しない氣
風を持つという。萬治園は日本書記で任那と
して日本府が置かれ、大和朝廷の半島支配の
拠点となっていたところだが、これは日本書
記の作為で、支那機械としての日本府の存在
を韓國研究者は全面的に否定している。日本
古府論争は別にして、萬治園（任那）が地理的
にも日本にものとも近接し、向者の間に直接
な關係があつたことは間違いないことである。バ
スの左の風景から見る山の上に丸く土生に樹
われた古墳群が見える。萬治園の萬治（御座）

入るともうみじかい芝草に覆われた古い古墳
の群が目の前にあつた。「新羅の古墳萬治」
に入つたのだと豪華感を覚える。カイドの金
さんと「百濟の古墳は碑や石で玄室がきちんと
とてきいたので豪華されてしまつたが、新
羅の古墳は木郭のまわりに河原石を積みあげ
てつくられてゐる。種石塔であるから、高さ
が函館で二つたから、遺物が残されている」と
と説明した。新羅の統一前の古い古墳は、地
表を掘り下けた土壁内に木郭を設け、その周
囲を河原石で積み上げ、さらに外に土を
積み上げてつくった内部積石塔である。しか
し最近はもと積石塔が本態で、封土は後付
の補修などという說もある。また、石室をもつ
た古墳も遺在しているといふことである。

萬治園古の大支台とくわねる時鐘台をみると、
御堂のレトロサイドホールで荷物を預いて、
八角形時鐘台の石灯籠も統一新羅時代の六
角燈籠を忠実に表現していて、萬治園の豪華
は、水道塔のより難かさない、その結果、
城を左にみて、金氏の始祖云飛の御社の近く
にある万治の多宝塔（因定二十号）と萬治塔
は、水道塔のより難かさない、その結果、
城を左にみて、金氏の始祖云飛の御社の近く
にいるが、萬治人のすぐれた造形感覚を
感じさせる。とにかく萬治の石造藝術のすば
らしい技術を發揮する。

の研が日の朝にあつた。「新羅の古墳萬治」
して日本府が置かれ、大和朝廷の半島支配の
拠点となっていたところだが、これは日本書
記の作為で、支那機械としての日本府の存在
を韓國研究者は全面的に否定している。日本
古府論争は別にして、萬治園（任那）が地理的
にも日本にものとも近接し、向者の間に直接
な關係があつたことは間違いないことである。バ
スの左の風景から見る山の上に丸く土生に樹
われた古墳群が見える。萬治園の萬治（御座）

を韓國研究者は全面的に否定している。日本
古府論争は別にして、萬治園（任那）が地理的
にも日本にものとも近接し、向者の間に直接
な關係があつたことは間違いないことである。バ
スの左の風景から見る山の上に丸く土生に樹
われた古墳群が見える。萬治園の萬治（御座）

の研が日の朝にあつた。「新羅の古墳萬治」
して日本府が置かれ、大和朝廷の半島支配の
拠点となっていたところだが、これは日本書
記の作為で、支那機械としての日本府の存在
を韓國研究者は全面的に否定している。日本
古府論争は別にして、萬治園（任那）が地理的
にも日本にものとも近接し、向者の間に直接
な關係があつたことは間違いないことである。バ
スの左の風景から見る山の上に丸く土生に樹
われた古墳群が見える。萬治園の萬治（御座）

韓國の梵鏡は大頂にパイプがついているのが特徴だ。鋼鏡、銅鏡は日本とヨリよく同じ、馬銜具は完全な形で保存され精巧がよくわかる。日本のものと実力がなく、武士刀柄は土師器に似た質感で、赤色土器（弥生時代）は土師器に變換したような感じである。金持式土器は太い脚柱があり、赤生式土器とよく似ている。

金冠等身像 列玉像などがすばらしい。金冠挿出土の金冠はうしろに鹿角形をつけ、山の字を三段に重ねたよくなほりを一や立てて、それにねえきれない程の磨跡を下げる。ひすいなどの勾玉もたくさんある。黄金製の帝帯は完全な形で、その文具を細い金の針金でつなぎだり、さしこんで止むたりする精緻な技法がよくわかる。盛装した王のきらめくゆらめく姿は、まさに黄金の國新羅の象徴そのものだったことだろう。

金冠三尊佛もすばらしい。なかには袋の長さにも足りないような小さなものもたくさんあり、恐らくは長野の善光寺の本尊の複数をことごとにいたいがしてうれしかった。これらは王族の御持仏として身につけていた。

ものと思われる。そうして日本にもそのようにして伝来されたものだ。新羅の書道は漢文を源とする古事記となりました。

古事記はかの研究課題であろう。たくさん丸い古墳群の中、円頂を一つつたたよみに石塔はあります。王族の墓塔は、古事記の書道を強調したという石塔の本體のようだ。古事記三室の一つともいわれる。燒茶のようだ。またが張つてある。新羅最後の景致王は、これまで水の瓶を振りて走るところを勢われてを小口積みにして樂遊されていく。燒茶女王

三年（六三四）の完成だが、外郭の櫻塚を除ぐ頭をとめて、民族が一日一日を待ち通じてつくつゝ。圓頂の石塔を起してくるが、東方はオントセイで、海から来る風の候避に對していられたどう。

古事記は見事の三体石仏は、古新羅時代のもので、燒茶女王を代表する石造彌陀の一つとなる。男子を生むため男性のシンボルである。母子を生むため女性のシンボルである。圓頂が圓形の左右に大きな石人、石柱がある。圓頂の裏面は切石の腰石を以てらし、その一定間隔で東石を立てる。それから方に十二丈の幅を以つてある。第一代は時代の古事記の一つの典型である。

金冠三尊佛は焼茶女王のあとで三重の圓頂が圓形の左右に大きな石人、石柱がある。圓頂の裏面は切石の腰石を以てらし、その一定間隔で東石を立てる。それから方に十二丈の幅を以つてある。第一代は時代の古事記の一つの典型である。

金冠三尊佛は焼茶女王のあとで三重の圓頂が圓形の左右に大きな石人、石柱がある。圓頂の裏面は切石の腰石を以てらし、その一定間隔で東石を立てる。それから方に十二丈の幅を以つてある。第一代は時代の古事記の一つの典型である。

で、後足で宝珠を握げる六歳の龜が被縛中にからまる形をしてゐる。現在佛牙は失なわれて龜趺の上に蟻首がのつてゐる。現存する最大のものであらう。これは中國の伝統式である。武烈王に國力したをうけつゞだらう。武烈王は國力した新羅第一の功臣、金慶梧原の駿が、すぐ上の丘陵上にある。この名将は金昌萬邑の出身であるといふ。城は掛垣と同じように腰石をめぐらし十二支神像を腰石に用いてゐる。遠く吹いてくる松風が涼しげ。

経風して済居居の漫功に備えた。こうして済
経との關係は断れてしまつたと考えていいが
が、事実はその後、新羅との關係を修交し、
統一新羅の文武王が韓からとり入れた制度や
文化を大祚榮に向けて、ひしと字んで新羅
姓に通いつき、通いこそうと努力した。その
成果が白頭文化となつて花開き、大宝、養老
の律令の制定となつて結果した。その出発點
使の本道は行なわれていなかつたのである。
白頭文化にみられる唐朝和式の影響は新羅と
の關係に於て取立したものであることを改めて

國の中心であり、日本府の體がれたといふに任那の地もある。藝術や禮作の文化がここから伝えられたと考えられるのにふさわしい景觀である。

金百萬帝國御製の主である金百萬王族にいへ。人口にある高い朱雀の舞威は門にはポンサインと書いて、鳥居の出形だとう。王族の近くに住む金浦金氏の宗教会の公孫さんが古文書を手にしてきて説明してくれた。大体の筋は三國遺事の記述によつてゐるが、それなりの主張もあって興味がある。

であるが、新羅に対する征伐の歴史的確証を改めなければならないことを感じた。新羅は樹に入貢して、その威勢を何て、西漢、高句麗を倒して半島にはじめて统一王道を創築した。大和朝廷はこれに對して威力をあけて百済を攻撃しようとしたが、源の高宗が派遣した武定方らを主将とする水陸十三万（三曲院定方）の大軍の前に敗北は落敗してしまった。（六〇）日本本は君の本軍のため自行江で大監

龜山に向かう高架道路にてる付近に乘馬して、
て弓を射る「花郎」のりらしい姿の動像が古
つてゐる。花郎は四象相続の弓に訓練しめ
えられた所羅門族の少年たちで、朝一王廟に
朝参に立つて勇敢に威つて射程成一王廟の御
乗を放しこけた。折し御守護神の御靈をさ
さず御召取が、青少年の勇猛像を放一箭を放
て「花郎」に就すうとしていることが歴然と
れる。

人の子が六つの無名國の窮屈者となりた。その一人である金き露王は、舟に乗ってきたインドアヌタ国(アヌタ)の王女と結婚して十人の男子と二人の女子を生んだ。王城の門にはインドのアユタヤのお城の差が彫刻してあるが、印度にも同様のものがあるという。王の七人の子は像になつた。馬来國の仙枝はだから印度から抱被入ったものである。二人の娘のうち一人は日本にお嫁にいき和白台國(ハクダイ)女王卑呂

して「大正」万葉の鏡は年号を記さずして失つてしまつた。そして北九州や長門に

鶴山のオラン出発して金澤に向かひ、次
東江下流の豊かな米作地帯が展開する。鶴

呼ぶが、たといり、實業團のインナ（社説）

昭和4年1月1日

もちろん現在のものは鉄器であるが、その鉄の部分が石であるという事だけの違いなのである。農耕の基本が稻文時代と現在と少しも変化のない現実に直面して、藤森栄一先生の発見による原始藝術の説明の一つを、そこに見出したのであった。

見学が一緒に終つてより、藤森先生の「原始藝術」を本城考古学的研究や題目の方法論を打ち出して施設させていたる、地元の研究者であり、この考古館の管理責任者であられる、武藤雄六先生と談話し、その駆けの上に通じて、『山城考古』といい小説を無理にあわせさせていただいて帰ってきた。武藤先生はそのお仲間の研究者であり、カリガリ久保先生とその仲間の研究者であり、今までどんなんに研究しても決して接することができなかつた、地元の研究者でなければ不可解とおもわれる、少しだけ方言調を聞き、結構より正しく是（よみがえ）らせた辻井色穂が研究先駆で幅広くとり、社會文化が復元ミントナイトまでかなり、歴史の歴史を発しながら五日かかって一氣に終了した。この時、我的考古学的知識は、何事かといふといふがしためは何故であろう？

それは昨年、三木さんに教えていたたいて、春、夏、秋と山の植物採集活動を毎年の年中行事として、かかさず活発に行なつてゐる。私が採集・栽培活動と題して、佐久地方の植物の考察をまとめた。それによって得た、私の研究の基本姿勢のあり方ともうべき點が、その「山城考古」に與ちあふれていたからであつたと云はれる。

かつて縄文時代、佐久地方にも栽培活動があり、武蔵野の研究者によると、山育ちの考古学者ではないが、どうも考へて置きを行つてゐたのは、猿猴遺跡の発掘作業の苦しい肉体労働を通じ、移りゆく四季を、自然の外気に体をさらしながら、慣れる所とそれに付けて受け取ることができただらである。それは、遠元の人間にのみしか理解できなかつてゐる自然との繋がりが、そこに住んだ縄文時代から人々の生活を推しはかれるからである。

同じようだ、坂道底にその著書（縄文時代の植物食）の中で、「われわれ日本人のもつ自然観は、おそらく純土人の生活にその源をたどれるであらう。瘤がつかがつてゐることとは、舉きる生産的現象であるはずはならない」と述べておられますが、それに、現代の植物食を統括する小もく、原始藝術などもたらでさえ、縄文時代の人々と同じように、の影響を統括するものである。

とんでもない事だとして、その反論はひどいものであったという。それほどひどい反論をしながら、最近では、好んで「誰か」という生業の定義の中に、いつの間にか、採集をなしてみると古い古物の生業は、衣類、農作業としか記されていない。人々と発見される新しい事実の例だ。その生業は、狩猟、漁労で通用しまくっておると思われる。

又、井戸底の最初を自己の手で掘める事をなく、以前の研究を否定する事は非常に危険な事である。現在の感覚でさえ追いつかないあの見事な藝術性を生み出した、生活の藝術その背景、更に藝術としてのあの石器類を、どう解明するつもりなのだろ？

又、武蔵先生が歎死してから、土器の使用目的と文様の解説は、現年と慶式物のみをありまわして、それを使用し生活していた人間を忘れさせ、それが考古学の至り方であるといい込んでいた私は、思ひきりカーンと頭をなぐられた氣がしたと同時に、なぜか前方に明るい道が開けたようにおもえた。更に、阿久江君の発見は、鹿児島代親に命

とんでもない事だとして、その反論はひどいものであったという。それほどひどい反論をしながら、最近では、好んで「誰か」という生業の定義の中に、いつの間にか、採集をなしてみると古い古物の生業は、衣類、農作業としか記されていない。人々と発見される新

すで古学外で扱えられなかつた、問題が新たに加えられてゆくであろうと思われる。

さて今まで何十年も発掘をつづけて来られた

昭和大正の時代を則氏は、「……」と記す。ケヤ山脈を中心とした中西高尾山方面の縄文文化は、いままで中西縄文文化の範囲を擴張した

地図として彩色づけられてきた。従来からその結果の背景は、岩島が熱の存在によって変づけされると予測されていたが、いまや荒神山

大石遺跡でのアリの発見によつてその予測も確実視されるようになりた。

編集後記

そうした中西縄文文化の最も中心的な中に忍耐と奮闘された昭和初期の大祭典、しかも墳丘状の石群というケタは、いずれの近隣をもつ阿久江遺跡の存在は、いたい何を意味するのか。

昭和大正の時代を則氏は、「……」と述べておられるよう、原田義信の結論への道が一步せまつたのではさいだらうか。

佐久江古道伊那 14号

発行所：佐久市大字志村田 1040～7

佐久考古学会編集局 木内 捷

T E L (02676) 8-0617

発行者：由井 康也

編集者：林 幸彦 花岡 弘

島田 恵子

さて今まで何十年も発掘をつづけて来られた

と想う。今後の研究発表に期待したい。（五十三年九月三十日記）

編集後記

そうした中西縄文文化の最も中心的な中に忍耐と奮闘された昭和初期の大祭典、しかも墳丘状の石群というケタは、いずれの近隣をもつ阿久江遺跡の存在は、いたい何を意味するのか。

昭和大正の時代を則氏は、「……」と述べておられるよう、原田義信の結論への道が一步せまつたのではさいだらうか。

昭和大正の時代を則氏は、「……」と述べておられるよう、原田義信の結論への道が一步せまつたのではさいだらうか。

- 一 昭和五四年度佐久考古学会總会次第
- 二 昭和五三年度佐久考古学会会務報告
- 三 昭和五三年度会計決算報告
- 四 昭和五四年度事業費計画（案）
- 五 昭和五四年度会計予算（案）

佐久考古大通信

版 15

1979, 5, 12
佐久考古学会

昭和 54 年度佐久考古学会総会次第

1. 日 時 昭和 54 年 5 月 13 日(日)午後 2 時 ~

2. 場 所 佐久市岩村田 桜山会館 大会議室

3. 日 程 (1) 講会のことば

(2) 会長あいさつ

(3) 日程説明

(4) 版長選出

(5) 講 事

第 1 号議案 昭和 53 年度決算・決算・会計監査報告及び次期の件

第 2 号議案 昭和 54 年度事業計画(案)本認の件

第 3 号議案 昭和 54 年度会計予算(案)承認の件

第 4 号議案 昭和 54 年度委員改選の件

(6) そ の 他

(7) 閉会のことば

4. 講 演 P.M. 3:30 ~

「佐久平の弥生式土器について」 講師 白田 武正氏

5. スライド大會 佐久町宮の水道跡、佐久市岩村田市水田遺跡、阿久比跡、

説明 林 幸彦氏

6. 懇親会 公費 1,500 円

(第 1 号議案)

昭和 53 年度佐久考古学会会務報告

853年6月10日 佐久市野沢会館にて総会及び高村博文講師による講演「佐久平の遺跡について」を行なう。

- 853年7月1日 佐久市岩村田茂樹会館にて役員会を行なう。
- 853年7月8日 佐久市岩村田茂樹会館にて第1回例会を行なう。
- 853年8月12日 # 第2回 #
- 853年9月9日 # 第3回 #
- 853年10月2日 # 展示会についての役員会を行なう。
- 853年11月3日～5日 佐久市中込重要文化財旧中込学校において考古資料展示会
「佐久の古代を知ろう」を行なう。
- 853年2月10日 佐久市岩村田茂樹会館にて第4回例会を行なう。
- 853年7月16日 佐久考古通信版12発行
- 854年4月10日 # 第13発行
- 854年5月1日 # 第14発行
- 854年5月12日 # 第15発行

展示会準備日程

本学会の年刊事業計画の一つである考古資料展示会は、昭和53年11月3日～5日の3日間にわたり、佐久市中込重文旧中込学校で開催された。以下展示会準備の準備日程を記す。

10月 2日 展示会についての打合せ会議・佐久市岩村田茂樹会館(8人)

- 資料収集の方法
- 広報活動の方法
- 模原
- 展示の方法 以上について話し合う。

10月4日～31日 復原作業

10月4・5日 佐久市内の個人所有の遺物を借用に巡る。

10月 5日 バンフ用の写真撮影

10月5日～11日 バンフ作成

10月 9日 展示会について市教委・佐久考古学会・公民館・佐久市文化財調査委員会との4者の協議を行なう。

- ・ 資料、主催、当日の応援体制等について簡議する。

10月11日 パンフレット原稿印刷がへまわす。

10月21日 パンフレット校正

10月25日～30日 ポスター作成及び南北佐久の各所へ貼り巡る。

10月25日～11月2日 展示物の説明書き、出展名、所蔵者名、展示資料名、等飾りつけに関する準備。

10月26日～11月2日 手書きパンフレット作成。印刷、墨本。

10月29日 展示収入のため尚迄り。

10月30日 会場へれ。茶菓、等を搬入し会場の設定。

10月31日 展示物を搬入し、飾りつけ及び展示資料を配置する。パンフ出来上り。

11月1、2日 展示物の配画、飾りつけ。

11月3日 展示会 スライド映写 午前1回 午後1回

4日 × × × 午後2回

5日 × × × ×

11月6日 あとかたすけ(10人)

11月9、10日 展示会整理(没出会場)

前記の日程をもって展示会は終了した。準備期間においては、のべ150人の佐久考古学会員有志の昼夜を問わずの献身的な奉仕があった。尚、約70個体の土器の復原、補修を行った。

展示会の展示物

旧石器時代	川上村 馬場半、柏垂、遠跡 佐久市 横名平遠跡
	奥牧村 矢出川、平沢バイロット遠跡
縄文時代	佐久市 佐沢、中利、和田上遠跡
弥生時代	佐久市 深堀、佐沢、西一里塚、餅田、大門下、東一本柳、羽跡
古墳時代	佐久市 今井西原、市道、上桜井北、上ノ坂、佐沢、戸坂、中道、家地頭第1号古墳、東1本柳古墳
歴史時代	佐久市 休石、櫛田、戸坂、上ノ坂、上桜井北、遠跡

見学者は3日前の芳名簿記載により670名であったが、中小学生、その他の記載われを考慮すると約1,000会員をのぼるものと思われる。

昭和 53 年度会計決算報告

収入の部

項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較	説明
1 緯 越 金	1) 緯 越 金	240	240	0	
2 会 費	1) 会 費	80000	69,500	△11,500	
3 委託料	1) 委託料	0	0	0	
4 会報売上金	1) 会報売上金	10,000	0	△10,000	
5 寄付金	1) 捐助金	30,000	0	△30,000	
	2) 寄付金	30,000	3,000	△27,000	
6 雑 入	1) 雜 入	760	1,304	544	
合 计		151,000	74,044	△76,956	

支出の部

項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較	説明
1 報 酬	1) 謝 礼	5,000	5,000	0	謝師禮
2 旅 費	1) 一般旅費	0	0	0	
	2) 役員旅費	0	0	0	
3 需要費	1) 印 刷 費	90,000	20,000	△70,000	油價4回
	2) 消耗品費	13,000	850	△12,150	
	3) 食 料 費	10,000	20,000	10,000	
4 役務費	1) 通 信 費	13,000	18,400	5,400	
5 備品費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事務局費	1) 事務局費	10,000	0	△10,000	
7 繰出金	1) 繰出金	5,000	5,000	0	櫻市貢へ
8 予備費	1) 予備費	5,000	0	△ 5,000	
9 緯 越 金	1) 緯 越 金	0	4,794	4,794	
合 计		151,000	74,044	△76,956	

(第2号試案) 昭和54年度事業計画(案)

- 1, 総 会 5月13日(日)
 - 2, 例 会 月1回第2土曜日 午後2:00~
 - 3, 講 演 会 5月13日(日)
 - 4, 会報の発行 年1回 (与良, 鳩水, 竹内氏追悼特集号)
 - 5, 通信の発行 年4回 (6月, 9月, 12月, 4月)
 - 6, 展 示 会 年1回
 - 7, 見学旅 行 年1回
 - 8, 役 員 会 隨 時

(第3号附表) 昭和54年度会計予算(案)

取入の部		単位円			
項目		本年度予算額	前年度予算額	比較	説明
1 繰越金	1) 繰越金	4,794	240	3,554	
2 会費	1) 会費	120,000	80,000	40,000	滞納金整理
3 委託料	1) 委託料	9,000	0	9,000	
4 会費売上金	1) 会費売上金	21,000	10,000	11,000	
5 寄付金	1) 捐助金	0	30,000	△30,000	
	2) 寄付金	0	30,000	△30,000	
6 雑入	1) 雜入	55,206	760	54,446	
合計		210,000	151,000	59,000	

支 出 の 部					
項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較	説 明
1 報 酬	1) 謝 礼	5.000	5.000	0	講師謝礼
2 旅 費	1) 一般旅費		0	0	
	2) 役員旅費	2.000	0	2.000	
3 需 要 費	1) 印 刷 費	144.000	90.000	34.000	道信 24000 考古 120.000
	2) 消耗品費	10.000	13.000	△ 3.000	
	3) 食 料 費	15.000	10.000	5.000	
4 役 務 費	1) 通 信 費	15.000	13.000	2.000	
5 備 品 費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事 務 局 費	1) 事務局費	10.000	10.000	0	
7 繰 出 金	1) 繰 出 金	9.000	5.000	4.000	慶弔へ
8 予 備 費	1) 予 備 費	0	5.000	△ 5.000	
9 繰 越 金	1) 繰 越 金	0	0	0	
合 計		210.000	151.000	59.000	

総会用メモ

慶弔費

項 目	金 額	説 明
基 金	10.000	前年表5.000 繼出金5.000
支 出	9.000	土贈御祝 武藤、高村御見舞
残 額	1.000	

佐久考古通信版 15号

発行所：佐久市大字岩村田1040～7

佐久考古学会事務局 木内捷

TEL(02676)8-0617

発行者：由井 茂也

調査者：林 幸彦 花岡 弘

島田 恵子

佐久考古大通報

昭 16

1979, 6, 28

佐久考古学会

- 一、通報十六号を送るにあたり
- 二、昭和五十四年度総会報告
- 三、昭和五十四年度年間事業計画日程
- 四、新役員の紹介
- 五、新入会員紹介
- 六、古の本遺跡歌謡
- 七、第一、二回例会のお知らせ
- 八、審査登記



みずなら

通信十六号を

送るにあたり

昭和五十四年度

総会報告

佐久考古近習十六号をお届けいたします。

さる五月十三日の記念に於て、五十四年要

の事務計画と予算案が承認されました。

別項に記せらる通りであります。が、会員

の皆さんの協力をお願いいたしまして、

総会や例会を廻り、特に自動的に賛成し

てあります。今後も積極的に働き、いた

会員の分派が、佐久会域に残る新会員を追

え出席者が多くなってきたことです。これは

言ふ迄もなく、癡癡による嬉しい連絡の発見

や投稿で過去と異なる一線の興味が高まってきたことと、文化財を保護してゆかなければならぬ時代の意識があるたれだといいます。

佐久考古学会にこゝでは大きな責任です。

どうか会員の皆さん、収集期に向う時期で

すが一筋の御指針と、もう一つ毎月の例会に

はぜひ出席していただき度いことを特にお願い

をされてお願いしておきです。

役立つものと思われます。

月一回 第二土曜日 午後二時

去る五月十三日、佐久市若村田畠水田町にて、昭和五十四年度の統合及び講演会が開かれました。

会長挨拶の後、森泉定勝会員を議長に選出し議事に入りました。

第一号議案と第四号議案までの討議を行な

い、第三号議案まで原案どおり賛成され、第

四号議案の五十四年度役員改選の件について

充分討議を行なった結果、多數の新入会員を追

えた例会より新たに役員を一名増加

し、会長以下その他の役員に就いては、一昨

年引続き再選となりました。

誠実致意後、白田武正議長により、「佐久

年間事業計画について」の説明が行なわ

れ、大変貴重な資料のコピーを全員に配布し

ていただき、基礎的な面からの解説は、非常

に理解しやすく、手ごたえのある勉強をさせ

ていただき、会員各位の今後の研究に大いに

引き続ぎ、春季意見によると、「佐久町官

の本道跡」「佐久市若村田畠水田町」と、由田武正会員による「阿蘇遠野」のスライド

大会が行なわれました。

時間切れとなり、次回のゴライド大會を約

し、惜しまれながら終了しました。

その後、近くの食堂にて懇親会が行なわれ

た。旧交をあたため合いながら、今年度の活動につれてつきまとなくなどやかな談話がつづき、総会の全日程を終わりました。

昭和五十四年度

年間事業計画

日程

六月十四日、第一回後例会は若村田畠開会

前に於て開かれ、今年度の事業計画について

定した事項について、御報告いたします。

活発な討議が行なわれた。

年間事業計画について、具体的な日程が決

1. 例会

新役員の紹介

<p>新泉 定助 〒三八五佐久市岩村田荒瀬 電 (02676) 7-4777</p> <p>会計 高橋 博文 〒三八四二二望月 町家月五</p> <p>金 報 井出 正義 〒三八四一一小海 町東馬流 電 (02679) 2-3171</p> <p>会報 七瀬 良久 〒三八四〇五越井 沢町長金三〇三三</p> <p>会報 背木 幸男 〒三八九越井沢町星 野 星野温泉ホテル</p> <p>会計 高橋 博文 〒三八四二二望月 町家月五</p>
<p>○会長 由井 茂志 〒三八四二二川上 電 (02679) 7-2401</p> <p>○副会長 黒岩 忠雄 〒三八四二〇三田田 電 (026782) 4101</p> <p>○副会長 森沢 平治 〒三八四二〇一佐久 市跡跡 電 (02676) 2-6677</p> <p>○地区委員</p> <p>I 地区 (越井沢町・御代田町・小諸市) 土屋 実 〒三八四小諸市六供 電 (02672) 2-1039</p> <p>○事務局 局長 木内 捷 〒三八五佐久市岩村田 電 (02676) 8-0617</p>
<p>II 地区 (北御牧村・立科町・波高村) 福島 邦男 〒三八四二二蜜月町片倉 重地区 (佐久市) 武藤 金 子 三八四一〇一佐久市平賀北供 電 (02676) 2-5176</p> <p>V 地区 (その他) 由田 武正 〒三八〇長野市北橋一〇一 電 (02672) 9-6-3315</p> <p>森原 登 〒三七一〇一群馬県多胡郡 城村馬場四六〇一 電 (02673) 2-3892</p> <p>○事務局 局長 木内 捷 〒三八五佐久市岩村田 電 (02676) 8-0617</p>
<p>○事務局 林 雄彦・花岡 弘 度 勤 高村 博文・曾木 幸男 電 (02672) 2-1286</p>

昭和54年6月28日

No.16

新入会員紹介

○ 諸山 信弘 〒384四小路市相木 電 (02672) 228269	○ 土器片の 土を洗ひつつ つくづくと その文様に しばし見入りぬ
○ バラバラに 混れし土器片 合せつゝ ついため息の 口より出する	○ 古の ロマンに駆入り 幾年も 土器の音が手 黒く荒れかたり
○ 宮の本遺跡歌壇	○ 古の おんなの息吹き 創作の 土器にはげしく 現れ燃える
○ 土器片は なにやら我に 丽るらん その土器片に 学ぶこと多し	○ 現われた 鹿石遺跡の 石組みに かんなの折り 理解せんとす
○ 宮の本遺跡歌壇	○ 現われた ミニチュア土器に たくされた かんなの折り 理解せんとす
○ 古の おんなの息吹き 創作の 土器にはげしく 現れ燃える	○ 古の おんなの息吹き 創作の 土器にはげしく 現れ燃える
○ 古の おんなの息吹き 創作の 土器にはげしく 現れ燃える	○ 古の おんなの息吹き 創作の 土器にはげしく 現れ燃える
○ 現われた 鹿石遺跡の 石組みに かんなの折り 理解せんとす	○ 現われた 鹿石遺跡の 石組みに かんなの折り 理解せんとす
○ 現われた 鹿石遺跡の 石組みに かんなの折り 理解せんとす	○ 現われた 鹿石遺跡の 石組みに かんなの折り 理解せんとす
○ 五十九歳 田中 三八六一〇 上田市斎久保みすす台南 電 (02676) 3622813	○ 五十九歳 田中 三八六一〇 上田市斎久保みすす台南 電 (02676) 3622813
○ 山蒲 春江 〒384四小路市山の前 柳沢 無 (02676) 7130479 佐久高橋生会員	○ 山蒲 春江 〒384四小路市山の前 柳沢 無 (02676) 7130479 佐久高橋生会員
○ 三八五佐久市岩村田相生町 三一六八一五	○ 三八五佐久市岩村田相生町 三一六八一五
○ 石敷ける 稲文の世の まつり場に なに祈りけむ 祈ひし人は	○ 石敷ける 稲文の世の まつり場に なに祈りけむ 祈ひし人は
○ 木内 和太郎 高見沢 信一郎	○ 木内 和太郎 高見沢 信一郎
○ 造石の 石の重さに つくづくと 背負ひて運びし 人々を想ふ	○ 造石の 石の重さに つくづくと 背負ひて運びし 人々を想ふ
○ 木南 誠治 〒384五佐久市岩村田上ノ 城二八八六 電 (02676) 810070	○ 木南 誠治 〒384五佐久市岩村田上ノ 城二八八六 電 (02676) 810070

帝の統治に 踏みこまれたり

踏みがえる 堀内祭紀の 祭事に
祈りひとの ここるを推動ふ

島田 忠子

編集後記

踏みがえる 堀内祭紀の 祭事に
祈りひとの ここるを推動ふ

第一・二回例会

心お知らせ

佐久考古遺稿第16号をお届けいたします。
一昨年に引き続いて、林、花岡、島田が担当
する事になりました。よろしくお願い申し
上げます。

昨年の逐級発刊を充分反省しつゝ、今年こそ
それを踏まえた発刊に務めよう努力するつも
ります。

次回は9月ですので、会員の皆さんとの日頃
の研究をお寄せ下さい。

次回は研究発表の特集号で掲載したいもので
す。原稿お待ちしております!

皆さまが歓しくなっております。夏まけをし
ないよう、もりもり食べて頑張りましょう。

第二回例会は、
八月十一日(土) 午後二時
会場は同じく旧広域事務所あとで行ないます。
以前に予定表にメモをお忘れなく



佐久考古遺稿第16号

発行所：佐久市大字岩村田1040の7

佐久考古学会事務局 水内 捷

TEL(02676)8-0617

発行者：由井茂也

編集者：林 春彦 花岡 弘 島田 忠子

- 一、 横考古学会役員会報告
- 二、 遊説研修旅行について
- 三、 例会のお知らせ
- 四、 講葉後記

佐久考古小通報

No. 17

1979, 10, 7

佐久考古学会



あわ

チーマ 勝生式土器から土器器
下伊那の追跡・追憶・遺物を中心
に。

日 程 八月二三日、見学会、バスで飯
田市古賀料館、恒川財團
スライド、デスカッション
於下伊那教育会

費 用 バス代、宿泊代、懇親会等各自
負担、五六十円

申込み はがき、先着四〇名（見学バス
のみ）。

一、五十四年度大会について
十二月一日（日）嬉沢市民会館
内等 夏の祭典開催を中心とした祭典者
は交換手帳。

二、会誌発行について
吉坂英武先生追憶号をだす。原稿まだ
してもらいたい。

三、その他の
総会で会員は賛成と決定。会費未納
会員には、京事務局でも納入方を呼び
かけるが、各地區でも呼びかけてもら
う大歓び出され、その後事務局で検討しまし

いた。

いた。

たところ、立記のように提案ができましたのでお知らせします。

いた。

中越追跡とみんなの集いは成功で
あります。近いうちに鹿角市をだした。

◎ 國家の保護と発送について
信函書類に依頼、保管料、発送手数
料を支払うことになる。書類の注文に
おつじては、注文から発送までの日数
がかかるので承知してもらいたい。

十六日までに事務局又は、02676-21-
24-1内線353の木内 機事務局長まで
ご連絡下さい。

当日の日程、宿泊場所の詳細は後日連絡い
たします。

◎ 鹿森栄一貫の選考委員が満期になっ
たが、全員再選をお願いする。以上
の通り。

（無署）

記

1. 日 時 十月二十一日（土）午前8時
十月二十一日（日）午後5時50分

2. 研修地 高麗山、藤岡市等の文化財
(伊勢豪古墳、藤音山古墳、新保
遺跡等)

3. 交通 マイクロバス

例年どおり、今年度も遠野研修旅行を計画
いたしました。

九月十四日の後員会にて群馬県方面とさ
らに予定です。

以上

例会心

お知らせ



第四回例会は、

十月十三日(土) 午後二時

佐久市大字志村田漫間会館前の木造建物
旧広域事務所あとで行ないます。

第五回例会は、

十一月十日(土) 午後二時

会場同じく旧広域事務所あとで行ないます。

予定表にメモをお忘れなく



佐久考古通報本17号をお届けいたします。

今は迷路歩道が種々あり、また、タ
イプの接種が教諭したため、ようやくこ
こまで仕上げるだけで精一ぱいで、相
の原稿まで手がまわらずお許しいただき
たいと思います。

通報がお手元に届いた翌日頃は、例会に
あたるのではないかと思ひます。

どうか万葉集を御用意下さい。

佐久の歴しい寒さに向ひます。

かぜなどに充分ご注意下さい。

例会で、研修旅行で、お会いしましょ。

佐久考古通報本 17 号

発行所：佐久市大字志村田 104.0 の 7

佐久考古学会事務局 木内 順

TEL (02676) 8-0617

発行者：由井 康也

編集者：林 幸彦 花岡 弘 田 恵子

昭和55年1月31日

佐久考古通信

- 一、年頭のあいさつ
- 二、幼稚な戯言
- 三、例会のお知らせ
- 四、新入会員紹介
- 五、佐久地方発掘調査一覧
↔

No. 18

1980.1.31

佐久考古学会



ムラサキツユクサ

年頭のあいさつ

会長 田井 康也

新年のめでとうございます。

会員の皆さんはほんとうに

御苦労様でした。昨年中は一年

半、小諸市、川西方面をつかう

飯久原、松井沢の各市町村に皆

さん各自の努力をわざわざした

が行なわれました。本

年はすれども野辺山、金布

や野辺山シンボジウムが行なわ

れ、それがやすばうしひ薦翁を

もったものだつたと聞ひます。

人間が形を違う時、その形態無論、

の発達は同じであるという意

した、育難うございました。器は女性に似ていて、特に腹は充実してさだかで前うしろに年齢かな乳分を吸わせても飼い姪の姿に似せたのではないかと思ふが、婷子に似ています。

幼稚女童

羽毛田 伸博

せんせい

去年の清水田遺跡発掘調査が

このあたりは同じ平面化で生葉

の調査が行なわれました。本

年はすれども野辺山、金布

や野辺山シンボジウムが行なわ

れ、それがやすばうしひ薦翁を

もったものだつたと聞ひます。

人間が形を違う時、その形態無論、

の発達は同じであるとい

うことです。器は女性に似ていて、特に腹は充実してさだかで前うしろに年齢かな乳分を吸わせても飼い姪の姿に似せたのではないかと思ふが、婷子に似ています。

増めておく器は女性に似ていて、これは丁度コトラ絵をダグインした人の発想と似ています。へ器を人間の体の一部の名跡としく

せんせい

カモシカ

はオリエント文化、ギリシア文

またのだと恩わぬま
代のエネルギー問題。

。勾玉の形、これは脊柱動物化がシナーラ文化の影響が形
が誕生していく細胞分裂の一段式化を示すことを説いています。

支那の時代

55 年
和田 明
物に二つとまったく同じ形があ
る。内空の參を通す穴と目にみ
てみるともつとよつきりとわかる観察に至るまです。と人間

火を仕事の中心に入れるには
その前の時代の人間より火を神
聖なものから、もうどう使用的

する。これを單に裝飾具と考えれば知窓を傾けさせたとの職に
す子孫のお守と考へ水す、恩恵せらる。又、用具の形態は
代のお守札ヒネツタレスヒテ御賀が遠つてゐるだけで今も固
分かれた機能で残つてゐる様にじである。へ疑問として今石器
思ひやる。へ疑問として現代の鍛鑄につけられてゐる名稱のセ
ネツタレスは明治以後、西洋文いがもしれなし。

なものへと思想転化した二とだろう。現代大陸の沿岸へ移登地方（）を見た時「いうりー（京都府の宇治）にあり、そこには立派な狸棚（）が建つてゐた。積み重ねた木の家で炉を切ってあるのは野屋

久
明の著入によつて飛達し、第ニ
次大戦後はそのあへだび登
。炉とかもど
。太古の人間にて火は
。由
。壁

の中央である。(二二)で感する
のは、祭祀用へ覆勝用、被服用

のビルを中心的役割であったが、それと父の住居内にある位置がそれ以後の女性の地位の進歩によっても関係あるらしい。

ひる。炉をとりまいての人間の坐する位置は決まっていたのだ。現代の四座を守る口といふ。現代の四座を守る口といふ。

いうことばとの関係。へ穀坐・下座(ヨリソキ等)又、ヨリソクラズ古山には木ド山^{アカマツ}の関係。

△かまどの時代△

ニニには炉の時代の人間より火に対する神聖さが遙くなつてゐる。今でも正月に鬼神^{（鬼神祭）}として祭る。

そうして中央の位置から住居のはじえと移る二とは、住居の部屋分かれの芽生えではないかと思われれる。ここには暖房用といつよりは炊事用に童子^{ヒトコロ}と書

かれたことの証の様な気がする。又、暖い地方の文化の影響ではいかないか? 主食が米などの植物。

△能動的用具△

物的であり、後駆的であつたが前時代に比で豊富になつてゐる。又、調理方法に調味料的感覚が加えられたのが、じうれる。

現代の我々は、社会のいろいろなことに当つて、人間の心の中にある二元性への意識は、古代の人間も又、同じ様な経験Vの文化圏があつた様な気がする。

ここにはへかまど^{ヘカマド}へいり^{ヘイリ}古の人間も又、同じ様な経験Vにかかわれます。

植物的であり、平和主義的で、△受動的用具

生産を生み出す用具總体に、ニカラのことを書く。こううの二に目新らしい物へのアーリジン性、そして、又、人間社會が進歩發展してきたのではなく人間のこしらえた物質材料が進歩發

あり、自然界の法则に支配され、いろいろな種類の感覚が感じられる。

円形的發展

昭和55年1月31日

履しただけでは、総の物の本質はそんなに変わらない、その本質はごく人間が見慣れていた自然界の中にありうるだというところを強く感じました。土の呼吸に

はなうないさし迫った問題が多
多ありますので、寒暖の差が少
しく過しつくい今冬ですべ、食
生活の多様の参加を重視いたし
ます。

神澤
東城
博
佐々木長二
以上五名の方が、昨年中に新しく本考文学会に入会された方です。

耳を傾ける位の心の中とりが
要だなとも思いました。

期日 二月九日 午後二時

卷之三

考古学の学問を知りな
い僕で
すから思
い違いがたくさんある

水道隣居互質料室

佐久地方發展

と思ひますべ、皆様のご指導を
今後ともお願ひします。

(一) 重慶圖

調查一覽

校久考古通信

(5)

今年二回目の例会は、二月廿日
日(土)です。

大井公敏
羽毛伊博
工藤介子
根岸

おひめさんを紹介する前に、お父さんの名前を
上回る、小諸市役所佐久事に
限りました。他町村については

新入会員紹介

昭和五十四年一月三十二日

次号で掲げたいと思ひます。

◎ 佐久地方発掘調査一覧表

(昭和五十四年二月三日)

佐久市役所

遺跡名	所 在 地	概要
門口B	小諸市大字甲字門口	国分期住3軒、鬼高期住3軒他。
菱形城	「 太字菱形字中尾根	豪門時代
宮北	「 大字耳取字宮北	国分期住2軒、鬼高期住1軒他。
清水田	佐久市大字岩崎字清水田	西朝中期住1軒、商行後期住9軒、鬼高期住3軒他
北西久保	「 大字岩崎字北西久保	群生平家、古御殿等住10軒他
和田上原	「 大字和田字和田上原	群生中期5軒、國分期住2軒
上の城	「 大字岩崎字上の城	浦坂遺跡1基
蛇場B	「 大字新羽山字蛇場	国分期住5軒他
笠宮	「 大字長坂字下化中原	古墳、平守日紙、土器10基 馬口墓、持鉢遺物1基
同防曲A	「 大字喜多原	国分期5軒、持鉢遺物他
兵士山	「 大字香取字兵士山	国分期住1軒他
丘斗代B	「 大字香取字丘斗代	織文前期石器器皿他

前集 後記

佐久考古通信にて号を分附け
いた事す。

佐久考古通信18
発行者 佐久考古学会事務局
島田 由井 花岡 林
佐久市岩村町二四〇の七
不内捷昌(秀人)一八〇六七
ついで御願み下さい。(Y.H.)

佐久考古通信18
発行者 佐久考古学会事務局
島田 由井 花岡 林
佐久市岩村町二四〇の七
不内捷昌(秀人)一八〇六七
ついで御願み下さい。(Y.H.)

佐久考古通信

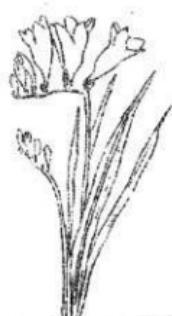
No. 19

1980, 5, 10

佐久考古学会

- 一、昭和五五年度佐久考古学会総会次第
- 二、昭和五四年度佐久考古学会会務報告
- 三、昭和五四年度会計決算報告
- 四、昭和五五年度事業計画（案）
- 五、昭和五五年度会計予算（案）

フリージヤ



昭和 55 年度佐久考古学芸術会次第

1. 日 時 昭和 55 年 5 月 11 日 (日) 午前 10 時 ~ 12 時

2. 場 所 佐久市岩村田 浅間会館 大会議室

3. 日 程 (1) 開会のことば

(2) 会長あいさつ

(3) 日程説明

(4) 課長選出

(5) 請 事

第 1 号議案 昭和 54 年度会務・決算・会計監査報告及び承認の件

第 2 号議案 昭和 55 年度事業計画(案)承認の件

第 3 号議案 昭和 55 年度会計予算(案)承認の件

(6) そ の 他

(7) 閉会のことば

4. 記念講演会 午後 1 時 ~ 4 時

「信州の考古学と地域研究」

講師 戸沢 光則先生(明大教授 文学博士)

スライド 「多摩湖の発掘」

〃

5. 感 観 会 会費 3,000 円

以 上

(第 1 号 案)

昭 和 54 年 度 佐 久 考 古 学 会 公 務 報 告

54年5月13日 佐久市長開会式において総会及び白山武正講師による講演
「佐久平の弥生式土器について」を行なう。

54年6月17日 第1回役員会

54年10月25日 2回役員会

55年3月6日 3回役員会

55年4月22日 4回役員会

54年8月11日 第1回例会

54年9月8日 2回例会

54年10月13日 3回例会

54年12月8日 4回例会

55年2月9日 5回例会

55年3月9日 6回例会

55年4月13日 7回例会

54年6月28日 佐久考古通信誌16発行

54年10月7日 " 17発行

55年1月31日 " 18発行

55年5月10日 " 19発行

54年10月20日～21日 遠路研修旅行

高崎市・藤岡市等の文化財

(伊勢塚古墳、観音山古墳、新保遺跡等)

55年3月20日～24日 考古資料展 「佐久平の弥生文化」 旧中込学校

(3月8日～19日) 考古展準備

以 上

メモ欄

昭和54年度会計決算報告

取入の部

単位円

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 較	説 明
1 繰 越 金	1) 繰 越 金	4,794	4,794	0	
2 会 費	1) 会 費	120,000	76,000	△44,000	
3 委託料	1) 委託料	9,000	0	△ 9,000	
4 会報売上金	1) 会報売上金	21,000	0	△21,000	
5 寄付金	1) 捐助金	0	0	0	
	2) 寄付金	0	16,000	16,000	
6 雜 入	1) 雜 入	55,206	722	△54,484	
合	計	210,000	97,516	△55,516	

支 出 の 部

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 較	説 明
1 給 食	1) 謝 礼	5,000	15,000	10,000	
2 旅 費	1) 一般旅費	0	0	0	
	2) 役員旅費	2,000	0	△ 2,000	
3 需 要 費	1) 印 刷 料	144,000	10,000	△134,000	
	2) 消耗品費	10,000	0	△10,000	
	3) 食 料 費	15,000	29,600	14,600	
4 役務費	1) 通 信 費	15,000	8,900	△ 6,100	
5 備 品 費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事 務 局 費	1) 事務局費	10,000	0	△10,000	
7 搬 出 金	1) 搬出金	9,000	14,000	5,000	
8 予 備 費	1) 予備費	0	0	0	
9 繰 越 金	1) 繰 越 金	0	20,016	20,016	
合	計	210,000	97,516	△112,484	

(第 2 号附表) 昭和 55 年度事業費預算 (案)

1. 総 費 5月11日(日)
2. 例 会 月1回第2土曜日 午後2:00~
3. 講 演 会 5月11日(日)
4. 会報の発行 年1回(与良・與水・有内・武藤道博特集号)
5. 通信の発行 年4回(6月・9月・12月・4月)
6. 見学旅行 年1回
7. 役員会 週 時
8. 遠遊会シンボジウム 10月

(第 3 号附表) 昭和 55 年度会計予算 (案)

取 入 の 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較	説 明
1 総 費	1) 総 費	200,16	4,794	15,222	
2 会 費	1) 会 費	80,000	120,000	△40,000	
3 委 托 料	1) 委 托 料	0	9,000	△ 9,000	
4 会報売上金	1) 会報売上金	10,000	21,000	△11,000	
5 寄 付 金	1) 捐 助 金	0	0		
	2) 寄 付 金	0	0		
6 雜 入	1) 雜 入	9,984	55,206	△45,222	
合 计		120,000	210,000	△90,000	

(/)

松　久　秀　吉

昭和55年5月19日

支　出　の　部

項　　目		本年度予算額	前年度予算額	比　　較	説　明
1 報　酬	1) 謝　礼	10.000	5.000	5.000	謝師施礼
2 旅　費	1) 一般旅費	0	0	0	
	2) 役員旅費	5.000	2.000	3.000	
3 需　要　費	1) 印刷費	45.000	144.000	△99.000	
	2) 消耗品費	10.000	10.000	0	
	3) 食　料　費	15.000	15.000	0	
4 役　務　費	1) 通　信　費	20.000	15.000	△ 5.000	
5 備　品　費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事務局費	1) 事務局費	10.000	10.000	0	
7 繰　出　金	1) 繰　出　金	5.000	9.000	△ 4.000	施設費へ
8 予　備　費	1) 予　備　費	0	0	0	
9 繰　越　金	1) 繰　越　金	0	0	0	
合　　計		120.000	210.000	△90.000	

火　七　號

佐久考古通報 第 19 号

発行所：佐久市大学岩村田 1040-7

佐久考古学会事務局 木内 捷

TEL (02676) 8-0617

発行者：由井 茂也

掲集者：林 幸彦 花岡 弘

島田 恵子

- 佐久考古通信
- 一、昭和五五年度総会・記念講演会報告
 - 二、興考古学会総会開催される
 - 三、周防畠の遺跡調査に参加して
 - 四、武藤金会員をいたむ
 - 五、新入会員紹介
 - 六、第三回例会のお知らせ
 - 七、事務局だより
 - 八、洞源山真祥寺の三重塔廻

版 20 号

1980. 7. 10

佐久考古学会



第八条 本会の目的を遂行するため次の委員会をおく。

一、常任委員会

- (1) 墓藏文化財保護委員会
(2) 藤森栄一賞選考委員会

二、特別委員会

第九条 本会には顧問及び会友をおくことができる。

以上

又、五五年度事業計画として、秋の大会を佐久地方で開催、野辺山シンボジウムとの兼ね合いで行なう。

県考古学会も野辺山シンボジウムには積極的に参加し、その窓口を佐久考古学会に依頼する。

以上佐久に關係の分を報告

(藤井)

向、監事には当会の黒岩忠男氏が県考古学会より推薦されました。

(区記)

周防畠の遺跡調査に参加して

神津 敦

近年郷土のルーツを探る試みが盛んである。

誰でも自分が生れ育った土地に祖先がどういふ生活をしたか、古代のロマンを知りたいと思うからであろう。

岐後荒原の時期に山林の開墾の際いくつか

の赤色の土器の破片を掘出したが、當時は関心を寄せるひまもなく無為に過してしまった。

それから月日は流れて戦場を定年退職した

機会に、北米カナダを旅行した。そしてその

広大な大陸の行く先々の自然の美しさと共に歴史の浅い國とは思えない独自の特色を生かした博物館があつた。

ロッキー山脈の氷河の道跡、中部大平原の中心にあるサスカクションの開拓博物館、東部におけるモントリオール、ケベック等初期の移民の生活や宗教等が居住民の歴史や古代生物の化石等と共に詳しく展示されている。

一ヶ月に及ぶ旅先で故郷の昔を偲びながら

帰国したとき、新聞には神津島と神津の祖先に関する記事が出ていた。

それにしても長士邑の古代はどうであったろうか。過去郷土史研究会を知り、その縁で掘り出された遺物には遠い先祖を偲び、時を忘れる思いである。

疲れた腰を延ばせば、濁川の田切から長士邑の南方に広がる田園が眺められる。今もある前田、良田、中田の地名は鉢倉時代末期に出来たといわれている。初め長士邑の地は雑林に開け湿地帯の泥地に水稻が作られるようになつて、現在のようになつたと言われる。

しかし、古くからの地名は長士邑であつて長瀬ではない。瀬とは深い水の流れが濁むところ、この地の古い地名には長士邑、長瀬、長戸邑と書かれ、奥川における佐久の諸町林にある長瀬村は山形県にあるが異なるようである。

そこは最上川の曲りくねつた瀬に近く、埼玉県の景勝地長瀬と同じであった。

ともあれ周防畠遺跡には、遠い祖先の跡が

(4) さてはると共に、これから先の追跡調査が楽しみである。又、諸先輩の御指導を命継ぎよろしく御願い申し上げ、素人の拙文を終ります。

ここに一つしんで武藤金会員のごろい様をお祈り申し上げます。

事務局だより

新入会員紹介

◎ 佐々木 宗昭 〒三八四一〇七 八千穂
村上畑

昨年十一月佐久市教委より調査依頼があり、佐久考古学会が調査（団長 田井茂也会長）した、周防烟道跡の調査報告書が会員各位の御協力により発刊されました。

武藤金氏は、四月六日午前八時二十五分胃ガソのため佐久総合病院で亡くなられた。75才。昭和四六年の戸坂遺跡より発掘調査に参加され、以後氏のすべてをかけて発掘調査活動に努められた。常に佐久考古学会の進展のために奮闘され、会員の指導にあたられた巧績は大であり、氏亡きあと佐久考古学会推進のため今後一層の会員の結束が必要であることがわられる。

また、昭和五十三年には、氏が保存会長をされていた「平賀氏城跡」を発見される等、在野の研究者として貴重な存在を占めた方であつた。

第三回例会の

お知らせ

日 時 八月九日(土)午後二時
場 所 岩村田浅間会館前の佐久広域事務

チーマ 赤い土器について

その他

(都合により8月はハガキ連絡ができませんので今から予定表に記入してお忘れなく)

尚、各会員に一番ナツツ晒星いたします。送料の手数があまりませんので、なるべく直接お渡ししたいと思ひますので、例会に御出席下さいますようお願い申し上げます。

洞源山貞祥寺の

三重塔婆

武庫
全

林源蔵にまかされた。失火の責任を感じてい
た小林源蔵は、こんどは、長男の小林一太郎
を棲梁に推し、妻子に出した二男啓大、三男
勝長もよびよせ、自分はその役見人となり、
親子こぞって再燃にあつた。

これは、一九七七年、文化財の見方（場）と題して、武蔵金氏が編集発行した。武蔵金氏を想んで、ここに掲載させていただきました。



編
集
後
記

龍溪先生全集

佐久考古前編 20号

佐久考古博物館20号をお届けいたします。
暑さに向ひます。会員の皆様夏まけをしないで
よう／＼お読み下さい。

神元寺別当が三重塔の再建を計画して、名匠の名高い黒沢村の宮大工、小林源藏屋長、(三代目)を棟梁として工事を進めたが、上棟を目の前にして、弘化二年四月四日、工事場から出火、三重塔の切組物を残らず焼失してしまった。

銅物師 岩村田宿大主伝左衛門
人沢村山形孫子治
小林源藏は、着工半て消失したことを見いだ。
金拾両を神光寺に寄送した。
嘉永二年（一八四八）八月十七日に完成。
着工以米三年目。

佐久考古博物館20号をお届けいたします。
暑さに向ひます。会員の皆様夏まけをしないで
よう／＼お読み下さい。

神元寺別当が三重塔の再建を計画して、名匠の名高い黒沢村の宮大工、小林源藏屋長、(三代目)を棟梁として工事を進めたが、上棟を目の前にして、弘化二年四月四日、工事場から出火、三重塔の切組物を残らず焼失してしまった。

銅物師 岩村田宿大主伝左衛門
人沢村山形孫子治
小林源藏は、着工半て消失したことを見いだ。
金拾両を神光寺に寄送した。
嘉永二年（一八四八）八月十七日に完成。
着工以米三年目。

佐久考古博物館20号をお届けいたします。
暑さに向ひます。会員の皆様夏まけをしないで
よう／＼お読み下さい。

佐 久 考 古 遺 嵊 瓦 20 号

発行所：佐久市大字岩村田1040の7

佐久考古学会事務局 木 内 捷

TEL(02676)8-0617

発行者：出 井 茂 也

編集者：林 幸 彦 • 花 両 弘 • 島 田 恵 子